



臨時

●上野・金沢方1号車のクハ489-505(写真左)の前頭部には自連形TNカブラー(SP)を標準装備しています。また、スカートには、解放デコとKE70形ジャンパ栓受けを再現しています。

●運転台屋根上と腰部のヘッドライト3灯とテールライト、トレインマークは常点灯仕様で「ON-OFFスイッチ」付きとし、これらの点灯には電球色LEDを使用、トレインマークはカラープリズムにより白色に近い色で、テールライトは赤色で点灯します。また、クハ489-5(写真右)の屋根上ヘッドライトは「H02編成」のクハ489-3とは異なり、カバー付きを再現しています。

●より実感的な前頭部とするため、ボンネット部の特急シンボルマーク、腰部のタイフーンは従来通りに付属の別パーツにより再現し、交換式のトレインマークは写真の「能登」を装着、交換用として「はくたか」「ホームライナー」「臨時」を付属します。なお、運転台後部屋根上の無線アンテナも別パーツを付属しています。



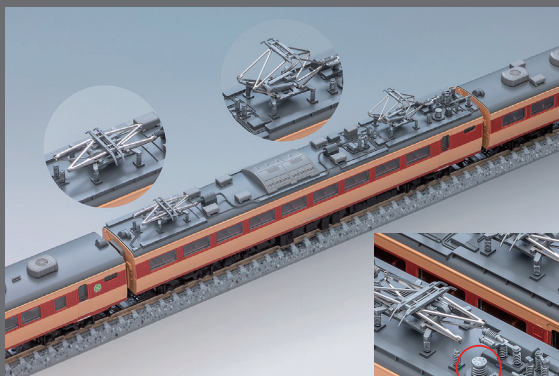
●先頭車の前位側台車後ろに装備するATS車上子は付属の別パーツで再現、また、各車連結面には配管付き密連形TNカブラー(SP)を標準装備し、トイレタンクを装着済みとしています。

●クハ489形では乗務員扉横のATS標記と側面のJRマークを印刷済みとし、併せて印刷済みとなる各車の車体番号には横軽対策車を表す●(Gマーク)を加えています。

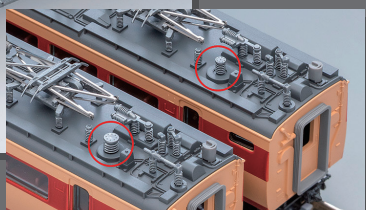


●特急「白山」用に改造された「コンビニエンス&ラウンジカー」のモハ489形では、客室との仕切部分にある上段下降窓に加えて、ソファやカウンターなどの室内インテリアを再現しています。また、「H02編成」のモハ489-21では方向幕下の洗面所窓が塞がれた状態を再現しましたが、本製品のモハ489-20では洗面所窓がそのまま残る姿を模しています。

●各車の窓Hゴムは黒色で再現するとともに、客用扉の靴スリとドアレールには銀色を差しています。



●モハ488形の屋根に載るパンタグラフは、いずれも交流機器各種が取り付けられた前位側を集電用(シュー)先端のホーン形状がパイプに改められた形態とし、後位側との違いを再現しています。また、交流避雷器は基本セットのモハ488-205がオリジナルの太いタイプ(下写真手前)としているのに対し、増結セットのモハ488-215とモハ488-13では交換後の細いタイプ(下写真奥)としています。また、モデルはパンタグラフ周囲の各種機器類を多数の別パーツで構成し、メカニカルな交流流車の屋根周りを引き立てています。



489系(能登)基本セット(5両)



489系(能登)増結セット(4両)

485系交流直流特急形電車を基本に、信越本線横川-軽井沢間でEF63形との協調運転機構を付加した489系は、客車急行「白山」を電車化の上、特急へ格上げするため、1971(昭和46)年7月に登場しました。同系は当初、485系100番代に準じて先頭車がボンネットタイプで製造され、上野・金沢方の先頭車クハ489形500番代には、横軽間の専用補機EF63形と併結するため、自動連結器と解放デコ、ジャンパ栓受けなどが備えられました。後の増備車は485系と同様のモデルチェンジが行われて、先頭車を前面貫通型とし、屋根上クーラーを変更した200番代と、先頭車前面を非貫通型とした300番代が加わり、総数174両のグループになって特急「白山」のみならず、その他の北陸特急でも活躍しました。特急「白山」で運用された489系は、1988(昭和63)年10月より従来の「国鉄特急色」からホワイトベースとした「白山区」へ変更され、さらに翌年1月から3月にかけてモハ489-18~21の4両が、客室の半分近くを売店とラウンジに改造されました。なお、北陸(長野)新幹線開業による特急「白山」の廃止後は、「国鉄特急色」に戻され、先頭車がボンネットタイプの編成は、夜行の急行「能登」として、引き続き上越線經由で首都圏と北陸地区を結び、JR西日本車がJR東日本管内に乗り入れる貴重な列車ともなっていました。

トミックスでは2010(平成22)年3月の急行「能登」定期運転終了を機に、上り最終列車に充当された489系「H02編成」を再現した、ハイグレード仕様の「489系「さよなら489系能登」」を同年に限定発売、その後、2012(平成24)年に先頭車がボンネットタイプで「白山区」と「国鉄色」をまとう2種を相次いで製品化しましたが、この度、定期の急行「能登」下り最終列車にも充当された「H03編成」を、アップデートして新たにリリースいたします。モデルはグリーン車と「ラウンジ&コンビニエンスカー」を含む5両基本セット(1・4・5・6・9号車、モハユニットはモデルチェンジ車)と、中間普通車のみの4両増結セット(2・3・7・8号車、モハユニットはモデルチェンジ車と0番代)を揃えて9両フル編成に対応し、各車の車体番号を印刷済みとします。モーター車にはM-13モーター使用のフライホイール付き動力ユニットを搭載、その他各車には新集電システムを採用し、いずれも黒色車輪としています。

489系 (能登)

■ JR 489系電車(能登)基本セット(5両)
＜97221＞予価¥28,050(税込)

■ JR 489系電車(能登)増結セット(4両)
＜97222＞予価¥16,720(税込)

JR東日本商品化許諾済/JR西日本商品化許諾済 10月発売予定